文化財課（博物館）☎22-1720
吉胡貝塚資料館　☎22-8060
渥美郷土資料館　☎33-1127
博物館HP　博物館インスタグラム

◆宝海天神社瓦経

田原市指定文化財の考古資料の中に宝海天神社瓦経があります。宝海天神社は、保美町下地にある神社で、瓦経とはお経を刻んだ焼き物のことです。この瓦経は中世渥美窯の焼き物で、元は保美地区の八幡社の宝物とされていたものです。しかし、1913（大正2）年に八幡社が宝海天神社に合祀されたため、この瓦経も宝海天神社の宝物とされて現在に至ります。

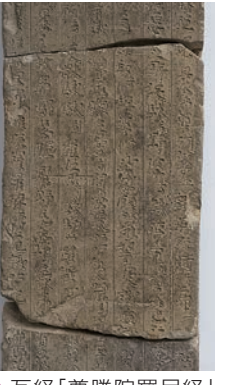
平安時代後期（11世紀中頃）、末法思想（※）が広がっていく中で、仏教を信仰していた人々が願いを込めて書き写したお経を経筒、経箱に入れて埋納し、経塚を作りました。経筒の中に納めたお経の多くは紙に書き写されたものでしたが、紙よりも後世まで残すことができる銅、焼き物、石に書き写したお経も作られました。その中で板状にした焼き物にお経を刻んだものが瓦経と呼ばれています。

宝海天神社瓦経には「尊勝陀羅尼経」と「摩訶般若波羅密多心経」を刻んだものの2片があり、瓦経の表・裏面に刻まれています。「尊勝陀羅尼経」を刻んだ瓦経の側面には「書写奉僧聖賢」とあり、僧聖賢がこの瓦経を書き写したことがわかります。聖賢の名前は、三重県伊勢市にある小町塚経塚出土の瓦経でも見ることができます。小町塚経塚に納められていた渥美窯の瓦経などは、1174（承安4）年に伊良胡御厨（伊勢神宮の領地で、範囲は旧渥美町域が想定されている）にあったとされる万覚寺の僧らの願いによって作られました。

宝海天神社瓦経に名前が見られる聖賢は、渥美半島と深い関わりがあったと考えられています。宝海天神社瓦経は、中世の人々の願いが込められ、現在に残された大切なものです。

※末法思想…末法とは、仏教の教えが衰えてしまう時代のこと

（学芸員　清水俊輝）



▲瓦経「尊勝陀羅尼経」
田原市博物館寄託